

学校保健委員会

- 1 学校名, 参加者
 - ・自校 鹿角市立市立十和田小学校 5・6年生児童, P T A保護者, 職員
 - ・相手校 大館市立山田小学校 4・5年生児童、近隣の学校の養護教諭
- 2 活動のねらい
 - ・助産師の講話を聞いたり、出産劇を見たりしながら、いのちの大切さを学ぶことができる。
- 3 T V会議システム利用の必要性
 - ・助産師から、いのちの大切さについて、わかりやすい教材や資料をもとにお話していただいたり、出産劇を見る機会はめったにとれない。他校にも参加を呼びかけて、T V会議システムを用いて共に学ぶ活動は、効率的な教育資源の活用に道を開くものであると考える。他校の行事に相乗りする形は、小規模校にとっては、有効な手段だと思ふ。

4 実際

| 活動の流れ | 教師や(学校外の人)の支援 |
|--|---|
| 1 第二次性徴の男女別の特徴について | <ul style="list-style-type: none"> ・助産師には、画面の向こうの山田小学校からの質問や反応にも、積極的に関わってもらえたのでありがたかった。 ・あらかじめ印刷して配布していた学習シートの活用の仕方について、画面を通して説明してもらった。 |
| 2 受精のしくみについて | |
| 3 受精から赤ちゃんの誕生まで ～児童・教師・助産師による 出産劇～ | |
| 4 いのちの大切さ | |

- 5 実践を通しての提言
 - ・助産師という専門職の方から、直接、いのちの大切さに関わるお話を聞けたのは、両校にとって有意義であった。持参いただいた教材や写真などの資料も豊富だったので、T V画面といえども、児童に与えたインパクトは大きかったと思う。見るだけの活動が多かった気もするが、とてもすばらしい話の中身だったので、退屈する児童は誰もいなかった。貴重な体験を両校で共有できてよかったと思う。
 - ・外部の人材をT V授業で活用する場合に気を付けなければならないことは、T V会議システムの特性をいかに理解していただくかということだと思ふ。両校の担当教師同士が打ち合わせを行う際、外部人材が担当するコーナーについては、あまり詳しく打ち合わせてこなかったような気がする。いわば詳しい中身は当日でなければわからないというケースが多かった。「画面の向こうの相手を意識して話してほしい」、「質問したら画面の向こうからの反応も取り上げてほしい」といったお願いを、あらかじめゲストティーチャーにしておくことが重要であると感じた。